

## 今年度の特記事項

### 1. 新型コロナウイルス感染症について

前年度 2022 年 2 月に住宅入居者 1 名、訪問介護職員 1 名陽性となって、約 1 カ月余り感染拡大防止対策に職員入居者一丸となって取り組み、それ以上の感染者を出すことなく 2022 年度を迎えた。職員は定期的な PCR 検査を積極的に受け、また、予防接種についても、住宅入居者・職員ともあさひ苑で行う集団接種を一緒に受けることなども含め、感染症対策に努めた。

### 2. 府中市高齢者住宅うらら多磨

年度内の退去者は 2 人。1 人は他県の住宅型有料老人ホームで要介護認定から要支援認定になったことで、府中市役所からのたつての依頼で受け入れた方だったが、うらら多磨にいることでさらに元気になって、市内アパートに独立した。また、もう 1 人は入居から 6 年が経過して、加齢に伴う ADL の低下が著明で、訪問診療や毎日の訪問介護などで対応していたが限界を迎え、老健に退去しその後市内他法人特養に入居となった。2 室の空室は速やかに対応して、年間稼働率約 97%だった。新入居の 2 人についても、他のサービス付き高齢者向け住宅では受入れが困難な、経済的心身の状態の方であると自負できる。

### 3. うらら多磨ホームヘルプサービス

長年あさひ苑居宅介護事業所で介護支援専門員を担っていた職員を訪問介護事業所の管理者として迎えたため、医療・介護連携型サービス付き高齢者向け住宅に併設する訪問介護事業所が行う入居者支援について住宅との連携が前年以上に進んだ 1 年であった。具体的には、月 1 回の利用者懇談会やコーディネーター会議への出席で情報共有できたことが大きい。そのため、身体的・精神的課題のある入居者への支援について、住宅コーディネーターと訪問介護事業所が心身の小さな変化の兆しに気づきを共有して、入居者間の軋轢も含め大事に至る前に対応できたことが多かった。また、職員に関する大きな出来事として、総合事業の府中市研修修了者 2 人が、法人で今年度から行った介護職員初任者研修を受講終了し、新年度からは、介護保険事業の訪問介護員としても就労できることになった。

### 4. 新たな 3 か年計画初年度として

2022 年～2024 年の 3 か年計画でも、訪問介護事業所は「要介護から総合事業対象者までどなたでも在宅生活が伸長できるように」住宅は「身寄りのない方でも、家族背景の薄い方でも住み慣れた府中で生活できるように」と社会福祉法人が行う、医療介護連携型サービス付き高齢者向け住宅としての役割を果たすことを目的としてこれからも変わらない事業継続を心がけた。法人内では、養護老人ホーム信愛寮と並んで、経済的な問題や、家族背景が薄い市民の受け入れを積極的に担っていくことを目指し、年度末には府中市福祉保健部生活福祉課と、そのような方への支援方法について情報交換を行うことができた。(情報交換会参加は、理事長・高齢施設担当理事・市内 3 か所の地域包括支援センター職員・養護老人ホーム相談員・うらら多磨管理職員)